

平成28年度 交通まちづくり懇話会（第3回目）

概要

日時：平成28年11月29日 火曜日 午後2時～午後4時
場所：八尾市役所本館8階 第2委員会室
参加者：一般参加者15名、市職員4名

【本日の懇話会の進め方について（略）、前回までの意見・質問等に関する回答（略）】

【自己紹介】

- ▼ 郵便局の南側にある信号についてですが、地域の人で一部の方は該当の場所は交差点に当たらないと言っている方がいます。一方でバス通りにある信号が青信号で車が通っていても危険が無かったら、通っても良いという解釈をしている方も中にはいます。交差点なら、見解の相違も出ないと思います。該当の場所の取り扱いが定めれば、問題もきちんと解決できて皆さんの合意も図られ、良い方向が見えてくると思って参加させていただきました。
- ▼ 高齢者も自転車に乗ることが非常に多いと思います。主に視力障がい者の方向けに歩道に点字ブロック、誘導タイルが敷いてあります。八尾市内の歩道は場所によっては非常に狭くなっています。高齢で自転車を操作することが困難な人やハンドルを操作しにくい人にとっては、特に雨の日の誘導タイルはタイヤが滑りますので、非常に怖い思いをしている原因になっていると思います。ある人のためには必要なものであっても、ある人のためにはこういうものが歩道にあっては、かえって危なくなるという話もこういう場で議論していただけたらなと思って参加をしました。
- ▼ この春まで小学校区の自治振興委員会の委員長をさせていただいておりました。学童の交通事故というものに非常に興味を持っています。その際には、八尾警察、八尾市役所の交通対策課にご相談させていただきました。4つ程改善させていただきました。今日はその辺りの話についても、ご紹介していきたいなと思っています。
- ▼ 11月22日に近鉄八尾駅の駅前で放置自転車のクリーンキャンペーンというものをさせていただきました。その際には騎士の会さんやちゃんりんこバスターズさんなど色々な団体の皆さんにご参加いただきました。引き続き協力をよろしくお願いいたします。

【意見交換】

参加者による交通全般に関する意見交換を実施。

- ▼ 最近、車道と歩道の区別のない道路で、グリーンベルトを引いている場所があると思います。そのグリーンベルトに植木鉢やプランターを置いている場所があると思います。ひどい所になりますと物干しの土台を置いている所もあります。子どもが通る時に非常に困難をきたしています。自転車で付近を通ると顔の所に物干し竿が当たります。非常に危険だと思います。もし物干し竿なり植木鉢を撤去したなら車を停めるだろうなどは思っているのですが、車だと駐車違反になると思います。物干し竿の台だと駐車違反にもなりません。何の罰則も無い、おかしいと感じています。
- ▼ 車いすでまちを移動しています。別にグリーンベルトがあっても無くても、車いすから見れば歩道に物を置かれるというのは非常に迷惑なことです。プランターもそうですし、話題に挙がっている物干し台もそうです。看板も最近多いです。車いすとしたら非常に困ってしまいます。時には、歩道に何らかの物があって通行が出来ない場合もあります。マナー以前の話だと思いますけれども、色んな人が道を通

るということ、皆が気をつけてくれたらこんな事にならないと思います。私たちも困っています。同じ意見です。

- ▼ 障がい者用の点字ブロック、誘導タイルについてですが、基本的に自転車などは車道を通ってもらえば問題の無いことだと思います。歩道を通ること自体があまり好ましくないというだと思います。こういうことに関する普及活動も必要だと思います。
- ▼ 東山本の一部の場所において危険を感じています。外環から双方向に車が通行するため、信号が変わると車が凄い勢いで来ます。グリーンベルトも4メートルの道に52センチしかありません。夏はまだ良いのですが、冬になると午後5時を越えると辺りが真っ暗になってしまいます。その時間帯だけ車の量を制限して欲しいという意見を聞いています。子ども達が通る際には、グリーンベルトを通って行きます。52センチでの設置だと心もとなく感じています。また自転車に乗っている方で無灯火で運転される方が非常に多いです。子ども達もお友達同士で連れ立って帰宅します。自転車のモラルも前はもっときちりしてくれていたと思います。多くが無灯火で自転車を運転される方が多いので、これもどうにかして欲しいなと思っています。
- ▼ 先ほどの話題にも挙がっていましたがグリーンベルトについてです。グリーンベルトは、歩道だとしたら、両サイドに付けて欲しいと思います。道幅について基準があるということなのですが、片側だけだと危ないと思います。グリーンベルトが引かれていない所もあります。どうしてなのかなと思っています。視覚障がい者の方についての話になるんですが、ホームの点字ブロックの内方線についてです。内方線がある駅と無い駅があります。内方線が無くても黄色い線まで下がってくださいとのアナウンスがあり、表示も出ています。30センチでも50センチでも黄色の点字ブロックをホームの内側に寄せてもらいたいと思います。電車に乗った時に、そういうことを思いました。
- ▼ グリーンベルトのような歩行者が通る道路に関してですが、つつい近所の方が道路上に植木鉢なんかを置いたりしているのかなと思います。八尾市のパンダカーでアナウンスなどを行い、該当する地域を含めて巡回や、町会でもチラシで広報を行うことも必要なのかなと思います。自転車の関係で言うと大阪府の条例も出来たりして、保険に入ることが推奨されています。これは事故が多いことが原因であると推測されます。事故があってからでは遅いです。基本的なルールとして、スマートフォンを操作しながら自転車を運転しないであるとかです。まだ自転車を停めてスマートフォンを操作するならともかく、運転しながら操作するなんかは以っての外だと思います。学校教育、社会教育、家庭教育も全てが大切です。三者一体となって、対処していかなくてはいけないなと思っています。もちろん本人さんの自覚も大切かなと思いますが、自転車を購入する際に購入者の方に注意喚起することも大切かなと思います。私の住んでいる小学校区では、校区で子どもを対象に警察の方も来ていただいて、年に何回か自転車の乗り方の講習会を行っています。
- ▼ 点字ブロックについて話題として取り上げていただいた方がいらっしゃいました。雨降りの時に自転車に乗って滑るので怖いというお話でした。我々視力が無くて白い杖一本で行動している者にとって、誘導の基になる点字ブロックというものは絶対に必要なものです。それと音の出る信号機と言うものは、絶対に欲しいものです。高齢者の方、雨の日に自転車に乗られている方、車いすの方、女性のハイヒールの方にはご苦労をかけていると思います。自分自身でも白杖をつきながら歩いているのも迷惑かも

知れないなと思いながら歩行しています。迷惑をかけながらも、我々視覚障がい者が点字ブロックがあることで非常に感謝していることを理解していただきたいなと思っています。よろしくお願いします。

- ▼ 以前から高齢者の乗る車での事故が多く発生しています。高齢者から車の免許を取り上げる方法を考えているような感じがします。高齢者が車を運転できなくなった後が大変だと思います。自転車が増えてしまいます。バスの運賃、電車の運賃は車のガソリン代、駐車料金より安くつきます。バス、電車に乗って貰うようになったら良いと思います。バスの運行時間も少ない時間でも1時間に2本、3本はあります。その時間に合わせて乗ったら、そんなに不便では無いと思っています。そういう方向に持っていく良い方法があったら良いなと考えています。
- ▼ いま若者の間で、位置情報を利用したソフトが流行しています。こちらが浸透する中で、運転をしながらゲームをするという行為が頻発してしまて挙句の果てに歩行者をはね飛ばしてしまって、はねられた人が亡くなってしまうというような悲惨な事件が最近起きていると聞いています。それに対して運転をしながら、該当のソフトをプレイ出来ないようにする方法が無いのかという声があり、制作したメーカーもその声に対応してくれている状況です。そもそも該当のソフト自体がGPS、つまり衛星によって位置情報を得ています。スピードが上がると操作している人間の位置が凄く早く移動する形になってしまいます。そういうシステムを使っているので、一定以上のスピードが出る場合はソフトを遊べないようなシステムを作っていく形でメーカー側も動いていると聞いています。同乗している方がスマートフォンを必要とする場合もありますので、スマートフォン端末そのものを操作できなくすることは出来ないと思います。スマートフォンの中のソフトの一部を使えなくするという事は可能なようです。
- ▼ 当たり前のこと、当然のことでも署名を集めることを要求されます。すぐにできる事でも、半年ほどの期間を要してしまった事例をひとつ申し上げたいと思います。通学路に指定されている道で、約50メートルほどの道があります。道路標示によって朝の7時から15時まで車の通行規制がかかっている、子どもたちの下校時間と一部しか重なっていない状況でしたので、車の通行規制の時間を15時から16時もしくは18時まで延長していただくように陳情いたしました。そうすると署名を集めるようにとの指示を受けました。教育委員会にも八尾警察にも行かせて貰いました。15時までの規制なのに、どうして通学路の指定を行ったのかと。結局250軒ほど署名を集めさせていただきました。こんな無駄な活動は無いと思います。ようやく半年後に18時までの交通規制の延長を行って貰えました。通学路の指定を打つなら教育委員会などの所が道を通って危ないか危なくないかの確認をして欲しいと思います。
- ▼ 南北方向の車両については、交差点と同じ信号があるのに東西方向には信号が無いような場所があるのは疑問を感じます。東西方向の利用の歩行者に対しては、押しボタン信号と横断歩道があるのに南北方向の歩行者に対しては何の案内も無いという状況です。車両の信号に従えということなのか、適宜判断せよということなのか。疑問を感じています、自転車は車両の信号に従うべきなのか疑問です。
- ▼ 歩行者用の信号が付いてある場合は、歩行者として歩行者用の信号に従ってください。自転車の場合ですが、自転車は車道を走っている場合は軽車両ですので車の仲間になります。車と同じ信号を守ってもらわなくてはなりません。自転車も走行可能な歩道のことを自歩道と言いますが、自転車も走行可能な歩道は自転車も走っています。その場合は歩道を走っていますので歩行者専用の信号があれば、それに

従ってください。ということになります。交差点は道と道が交差しているので交差点と言います、信号が無い場合で東西南北どの方向からでも通行できる交差点の場合、信号が無いのでそれぞれ交差点に進入する場合、右折する左折する場合にまず状況を確認されると思います。信号が付いていれば信号に従うと思います。南北方向の道には信号が付いているけれども、東西方向の道には信号が付いていない。南北を走行する人は南北方向に付いている信号に従うけれども、東西に通行する人は東西に信号機が付いていないので、東西に通行する人は何に従って交差点に進入すれば良いのかという内容です。信号が無い交差点なので、信号の無い交差点の入り方をさせていただくということになります。左右を確認していただいて、車が来ていないことを確認していただいて、交差点に進入していただくという形になります。歩行者も同じように横断歩道を渡る場合にも、同様となります。このことが小学生の低学年生にも詳しく説明して言葉で持って理解してもらうことが可能かと言われますと、非常に難しいと言わざるを得ません。こういった点は学校教育であつたりとか、家庭教育が非常に大切になってくると思います。現地でこの信号を通る時には、この信号を守ってと伝えるとか、左右を確認して渡ることなどを伝えることが大切になってくると思います。

- ▼ 以前からことあるごとにお願ひしていることについて申し上げます。道路の修復、道路の修繕がある時、建物を建てる計画をする時なのですが、我々視覚障がい者の関係することについて障がいを持っている当事者も交えて構造物を作るなり、道路を作るなり修復に当たっていただかなければ、意味が無いと思います。我々の要望している物を設置していただいても、僕らの希望に反した実物が設置されている。そんな所があらちこちで散見されます。何か作る際には車いすや障がいを持っている方を参加させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。
- ▼ 極端な場合を申し上げますと車止めのU字パイプがあると思いますが、あれを歩道の真ん中に作られてしまいますと私たち視覚障がい者はU字パイプがあるかどうかわかりません。U字パイプにぶつかって痛い思いをして初めてわかります。そんな所が八尾市内の道路のあちこちで見られます。現実に作られる場所に我々視覚障がい者や車いす利用者を立ち会わせて、車いすの方と視覚障がい者が衝突することもあるかと思ひます。衝突したならお互いに折り合いを付けてやれば、もっと良いものが出来ると思ひます。あくまでも現場に携わらせていただきたいと思ひます。お願ひします。
- ▼ 私事になりますが、この懇話会に出てから道路に出て道を曲がる際には後ろを確認して、前を見て異常が無いかを確認して歩いたり自転車に乗ったりしています。実は2か月ほど前に自転車に乗っていた際に、後ろから来た自転車にぶつけられてしまい怪我をしてしまいました。なぜぶつけられてしまったかと言ひますと、私が右折するために、後方から何か来ていないことを確認するために、自転車を止め足をつけた所、猛烈な勢いで後方から走ってきた自転車が止まり切れずに後ろからぶつかってしまったという次第です。ぶつけてきた相手方がどういう状態で自転車に乗っていたかと言ひますと、30代位の女性ですが前と後ろに子供を2人乗せていまして、その上で前かごに大きな荷物を載せていました。ハンドルがふらついて、真つすぐ曲がれなかったんです。これは自転車に乗るマナーに違反していると思ひます。
- ▼ 以前に携帯電話が発売された時には、携帯電話を操作しながら運転をしてはいけないという啓発運動が盛んに行われていました。スマートフォンは携帯電話よりもう一段階危ないと思ひます。事故の原因と

なり得る製品が発売された際には、行政が対策を講じることが遅れているんじゃないかと思います。とにかく安全な道路を使って出歩くためには、どうしたら良いのかを考えています。この懇話会でも中々結論は出ないかなと思いますが、皆さん方の関心を懇話会の場で高めてもらって解決に導くやり方に結びつけていけたらなと思っています。

- ▼ 騎士の会の啓発活動を普段から行っている際に感じていることを申し上げます。啓発活動ではビラ配りを行っています。啓発活動を行っている近鉄八尾駅の高架下には、啓発のための路面シールが貼っています。このシールが小さくて中々見にくく感じています。高架下の柱に貼ってあるシールは見えやすいのですが、どういう風にしたら皆が見てくれるのかなと思っています。啓発活動を行う私たちも出来ない理由を探すのではなく、工夫をして、道行く人たちに気づいて貰えるような啓発活動を行うことが大切だと思います。
- ▼ 今日配布している資料に、約10年前の近鉄の河内山本駅の状況が載っています。自転車の放置が多く、非常に雑然とした状況で車いすの通行も難しいというような状況です。何年間か運動を継続して、今はこの自転車が雑然としている状況ではありません。ちゃりんこバスターズさんと行政が運動を行って、解消に繋がった訳です。私は騎士の会としての活動で、月に1度第3土曜日にビラを撒くなどの啓発活動を行っております。こういう地道な活動を行政と共にやっていけば、道は広がって行くと思います。そのひとつの成果として河内山本駅の状況が解消に至ったと思っています。地道な運動を続けても、すぐに成果として現れません。時間はかかりましたが、この状況は解消されています。行政に頼るのではなく、時間をかけて何らかの啓発活動を行っていけば道となり繋がっていくと思われま。
- ▼ 街づくりについては皆さんが色々と思いをもちだと思っています。それぞれの方が何人かでグループを組んで訴えかけて欲しいと思います。そのグループ同士が連携して、まちづくりなり交通に対して思うことを直接訴えかけて欲しいと思います。そうすることで、街全体が住みよい街になっていくと思います。自分たちで活動をしていくきっかけを作られると、この懇話会ももっと良いものになっていくと思います。行動しましょう、アクションを起こしましょう、連携しましょう、街を変えていきましょう。
- ▼ 河内国分の駅で視覚障がいの方が、ホームから転落し特急電車にはねられてお亡くなりになったという話がありました。こういう事故が起きて出てくる話題としては、ホームドアというお話です。ホームドアを1基つけるのに3億円から10億円かかるという話を聞いております。全部の駅にホームドアを付けるというのは、難しいと思っております。点字ブロックがホームの所にあると思います。その内側にフェンスを付けて、乗降する入口付近のドアごとを空けるようにして貰えたら、視覚障がい者が杖で歩く限り落ちることは無くなると思います。簡易的にほとんどの駅に付けられ、費用もそんなに掛からないと思います。今はホームドアや、簡易的なホームドアについて話題になっていますが、一番大事なのは人からの声かけだと思っています。人の声かけが一番ありがたいです。まずは声かけをよろしく願います。
- ▼ 八尾視覚障がい者福祉協会さんからも要望をいただいております。駅のホームの中を視覚障がい者の皆さんが、安全に歩けるようにするように鉄道会社に対し要望を届けてくれるようにとの声を頂戴しています。要望を受けたあとに先ほどお話いただいた河内国分駅での視覚障がい者の方の事故が発生してしまいました。ホーム柵に関しては利用者が10万人以上の駅に設置することが1つの基準となっていま

す。1万人以上の駅については、内方線、つまり点字ブロックの内側に線が入っていてどちらがホーム側、内側なのかが判るようにするというのが平成23年に方針として出されております。この方針を鉄道会社も平成32年までに履行してくださいということになっていました。こういう事故があった影響もあるかと思いますが、平成29年度に実施していくという形で鉄道会社から発表がなされています。それに関して、八尾市には近鉄八尾駅やJR久宝寺駅、JR八尾駅、JR志紀駅とありますので、まず1万人の駅については内方線を設置していただくという形で鉄道会社にはお願いしています。

- ▼ 私鉄は収益があまりあがらないので、無人駅が増えていっているという話を聞きました。経費削減の一環であると。過去にホームにいた駅員さんを減らしていき、どんどん無人駅を増やしていった。駅のホーム上に駅員さんをひとり置いていたら、他の事でも活躍してくれていたのでは無いかと思います。ところが駅の運営会社は、ホーム上にいる駅員さんをどんどん減らしていきます。それがどんどん積み重なって行って、こんな結果になったのかなと思います。さきほど仰っていたように、ホームドアを設置するのに2億円～3億円かかるというお話でした。駅員さんを従事させる人件費とホームドアの設置にかかる費用と、ランニングコストとを天秤にかけるとどちらが良いのかなということを疑問に感じています。
- ▼ 駅員さんの数が少ないということもあると思いますが、ホームでの事故があった時には事故の当事者の視覚障がい者の方の周りには人がいたと思います。事故が起きた後のニュースでの検証内容を見ると、電車のホームを外れて音を聞きにいこうとしていたという事を聞きました。現場を見ていたなら、一言声かけをして止めてあげなかったのかなと思います。危ないと声を掛けていたら、落ちずに助かる命だったのかなと思います。仕事だから駅員さんが見るというだけではなく、その場にいた視覚障がい者の方の周りにいる人たちも気を付けてあげなくてはいけないと思います。
- ▼ 都合の良いことを言うかもしれませんが、聞いて下さい。通学路でボランティアで子どもたちを守っている人たちがいると思います。ああいう人達が自分たち障がい者を守る為に駅の中でも活動してくれたら非常に助かると思います。非常に勝手な意見だけれども、そういう活動してくれるボランティア団体が出来てくれたらありがたいなと思っています。学校と言えば黄色のベストを付けたボランティアの方がいると認識がなされていると思います。駅の中で先ほど述べたような活動を行ってくれる団体が出てきてくれたら嬉しいなと思っています。
- ▼ 過去に経験したんですが、視覚障がい者の方が傍にいて偶然同じホームに降りる事になったので付き添いましょうかと声かけを行ったところ、付き添って貰ったら危ないですと拒絶されてしまいました。実際のヘルパーさんや同行援護者の方なら良いのかなと思いますが、拒絶されてしまった一件があってからは視覚障がい者の方に声かけするのを控えるようになりました。親切心で行った声かけを明確に拒絶するようなことが無ければ、声かけを続けていたかと思いますが、私はそのことをきっかけに声かけを行わないようになりました。
- ▼ 確かに視覚障がい者の方にも色々な方がいるので、中には激しい拒否反応をする方もいると思います。手引きされることを嫌がる視覚障がい者の方も多々います。視覚障がい者全体から言わせていただきますと、声かけをしていただいて手を貸してくれることは非常に有り難いです。ほとんどの視覚障がい者は人の声かけ、手助けを喜んで待ち受けています。難しい方も何人かはいると思います。そんな方々に

また当たられると、何とも言えない気持ちになると思います。でも、他の方は手を差し伸べて貰うのを待っています。よろしくお願いします。

- ▼ 私も先ほどの方と同じような経験をしています。八尾の駅から駅員の方に付き添われて乗車してきた視覚障がい者の方が、駅で降りる時にホームで待っている駅員さんの所に行くのに、端的に言うともたついでいました。私も同じように、介添えをしてあげようと思ひまして、後ろの方から案内しましょうかと声を掛けたところ手で振り払われてしまいました。同じような経験だなんて思って聞いていました。ひょっとしたら同じ人かもしれませんね。先ほど言われたように、人によってはそういう方もいらっしゃるかも知れません。だけど、そういう人は少ないと思います。良く話題になると思いますが、電車で若い人が座っていて前に高齢の方が立っている時に、席を譲ろうとすると断られ、あげく怒られてしまう。それと同じような状態だったんじゃないかと思ひます。私も先ほどの一件があってから、あまり積極的に声かけはしなくなりましたが、後ろからそっと問題が起きないかだけは見るようにしています。というのも懇話会に参加していて、視覚障がい者の皆さんから色々のご意見を頂戴しているので。直接声かけをしなくても後ろから見守るように心がけています。
- ▼ 騎士の会の方にお尋ねしたいと思ひます。前にもお尋ねさせていただいたのですが、近鉄八尾駅の地上の通路についてなんですが、西武百貨店や三菱東京UFJ銀行へ向かって抜けていく通路に最近ですが、「ここは歩道ですので、自転車から降りて押して下さい」というシールが貼っていると思ひます。あの通路ですが、自転車から皆さん一向に降りないですね。誰が注意してどのように指導していけば良いのか、難しいです。何か効果的なやり方を考えていけたらと思ひます。
- ▼ 騎士の会さんの活動について触れていただいたと思ひます。交通対策課の職員も騎士の会さんと一緒に啓発活動に参加させていただいています。近鉄八尾駅の高架下を歩道として自転車に乗ってはいけないと認識している方は、ほぼいないんじゃないかと思ひえるくらい、自転車に乗ったまま走行されます。ただし、騎士の会さんが月に1度の啓発活動を続けていただいている結果、回を増すごとに自転車から降りられる方が増えています。啓発活動の開始当初は喧嘩腰の方もたくさんいらっしゃいました。啓発活動をしている我々の方に向かって危ないと言って、当たって行かれる方もいました。暴言を吐かれたこともあります。ただし、回を増すごとに降りられる方も増えてきました。皆さんもご存じのように、物理的にバリケードを張るとか自転車を通れなくするようにすれば、該当の場所は間違いなく自転車は通らずに歩行者だけになると思ひます。近鉄八尾駅周辺は歩道ですので、自転車から降りて貰わなければならないのですが、70歳以上の高齢者の方と12歳以下の子供さんに関しては、歩道でも自転車での走行は可能です。歩道とはそのように限定がなされています。そのため、話題に挙がっている近鉄八尾駅の高架下について、全ての自転車を通れなくすることも中々出来ないというのが現状です。こういう啓発活動というのは、徐々に効き目が出て効果が出てきてということになります。騎士の会さんで着用しています黄色のジャンパーを見るだけで、自転車に乗っていたら降りようかなというようなイメージがこの八尾市に広がっていき、近鉄八尾駅の高架下が自転車での走行がダメなら他の駅もダメだろうと言う風に皆さん方が思うようになっていただければ、それでまた輪が広がって行くのかなと思ひます。

【おわりに】

アドバイザーからのコメント（要約）

- ▼ 先ほどスマートフォンと運転のお話があったと思います。面白い考え方というか実例がありますので、それを紹介したいと思います。人の行動を変えるには大きく3つの方法があります。ひとつは規制です。罰を与えてさせないようにするというやり方です。2つ目が誘導というやり方です。こうするとお得ですよということで、人の行動を変えていくというやり方です。3つ目は啓発というやり方です。意識を変えていくということです。騎士の会さんが徹底してこだわっているのは、啓発というやり方です。つまり人の意識を変えて貰うことによって、問題を起こさないようにしようというやり方です。先ほど話題に挙がりました運転中のスマートフォンの操作に関する話題ですが、誘導で対策を行おうとしている所があります。愛知県内の話になります。愛知県はトヨタが本社を構えています。トヨタが旗振り役になってくれたんですが、a uというスマートフォンの運営会社があり、KDD Iが正式な名称になりますが、KDD Iはトヨタも出資を行っています。そのためトヨタの子会社という側面もあります。そのトヨタとKDD Iと愛知県に拠点があります喫茶店のコメダ珈琲が連携を取って、スマートフォンのソフトを配布しています。このスマートフォンのソフトはスマートフォンの本体がどっちを向いているのか検知をします。スマートフォンの本体を裏返しておく、本体を裏返して運転するとスマートフォンを裏返しにして運転したという記録がスマートフォンに残ります。スマートフォンを裏返しにして運転したという記録をコメダ珈琲に持っていきますと、コーヒーが割引されるという方法を取りました。してはいけないという罰を与えるのではなく、スマートフォンを見ずに運転したらお得になりますよというやり方を取りました。そうしてスマートフォンの利用を減らしたという事例もあります。規制・誘導・啓発という方法から、私はまずは啓発活動を行ってみてどこまで出来るのか。啓発でできなかつたら誘導という方法を考えてみる。それでもできなかつたら規制という方法を取ってみる。という順番で考えたいと思っています。確かに規制という方法は即効性は非常に高いですが、規制という手段ばかりを講じていると規制が無ければやってもいいんだという人を増やしてしまいます。これは別の意味で社会として問題かなと思っています、その辺りをもう一度皆さんと一緒に考えてみたいかなと思っています。
- ▼ 2つ目はできるだけ当事者が参加してデザインが出来ないのかという話です。デザインを決めていく方法としてバリアフリーというものがあります。それからユニバーサルデザイン。バリアフリーというのは障がいがあって、それを無くしていくということを前提としています。まずは障がいありきでそれを無くしていくということを前提としています。ユニバーサルデザインは全ての人が使えるデザインということですから、最初からバリアを作らないという一歩進んだ考え方です。ところが最近はより一歩進んでインクルーシブデザインというデザインの方法が出てきています。インクルーシブというのは、抱え込む、包括するという意味ですが、当事者の方々も参加をいただいてデザインを決めていくというやり方がインクルーシブデザインというやり方になっています。この方法が上手くいくと先ほどから話題に挙がっているお話というのは、かなり改善できるかなと思っています。
- ▼ ひとつインクルーシブデザインの事例について触れたいと思います。交通まちづくりに関することでは無いのですが、世の中に現金を出し入れするATMという機械があります。実はセブン銀行、この辺りで言うとアリオやセブンイレブンに置いてあるATMですが、他と少し違いがあります。何が違うかと

言いますと障がい者の方が設計の中に入ってデザインの決定がなされています。そのことによって、あのATMはタッチパネルを使用しなくても音声ガイダンスとテンキーだけで全ての操作が完了できるように最初からデザインされています。視覚障がいをお持ちの方は既にお分かりだと思うのですが、最近液晶パネルでタッチをして操作するものが余りにも増えすぎていて、目が見えない方はとても使いづらいことになっています。他のATMはほとんどタッチパネルになっていると思いますが、セブン銀行のATMは最初にATMの前に立ちますと音声ガイダンスが流れましてタッチパネルで操作することも出来ますけれども、あとは音声ガイダンスに従ってテンキーで全ての操作が出来るようになっていきます。これは視覚障がいをお持ちの方にとっては非常に優しいATMだと思います。最初から当事者の方がデザインの段階から参加していたので、そういうデザインで出来上がってきました。これからこういうインクルーシブデザインが色々な所で採用されたら良いかなと思います。

- ▼ 今日も色々なタイプの障がいをお持ちの方が集まっておられますので、当然インクルーシブデザインは多様な方々が入っていただいて意見の交換をしてデザインを決めていただかなければならないです。実は今日はバリアをお持ちで参加されていない方もいらっしゃいます。それは外国人の方です。外国人の方で日本語が解らない方は、社会の中でバリアを抱えていらっしゃいます。そういった方々も踏まえて色々な立場の方々が意見交換をし、デザインを決めていくインクルーシブデザインと言う考え方がどんどん普及し始めていますので、八尾はインクルーシブデザインの先進地になるようなことになったら嬉しいなと私は思っています。
- ▼ 3つ目のお話で言いますと、地域の問題という話がありました。地域には色々な立場の方、考え方の方がお住まいになっていて、とても難しいなと考えています。ひとつ具体的にお話しますと、豊中の駅前に商店街があります。ここをもっと買い物をしやすいようにしようということで、車を止めようという話がずっとあります。ですが中々、車を止められません。一度、4日間だけ社会実験を実施させていただきました。その前にはまちづくり協議会でずっと議論をして、車を停めた方が良い、止められたら困るという議論をずっとした中で、一度やってみようということになりました。実験が始まった当日の朝10時から車が停まるという事になっていましたが、10時2分位に市役所に電話がかかってきて、誰が車を停めて良いという勝手な事をしているんだという電話がかかってきました。お住まいの地域の確認をしたところ、その社会実験をしている地域の方でした。市役所の方が、まちづくり協議会で話をして、今日から実験をするということで話はまとまったんじゃないでしょうかと話をしたところ、まちづくり協議会の奴らが勝手に決めたことだと。私は協力するという話はしていないぞとなりました。ここが非常に難しい所です。例えば一方通行なんかもそうです。車を駐停車禁止にするのもそうですが、して欲しくないという立場の方もいらっしゃいます。そこを時間をかけて議論をしていかないといけない。答えを出していかなくてはならないと思います。誰かが甘んじなくてはいけない部分はあるかと思えます。
- ▼ ここから先が八尾では大事なかなと思うのですが、八尾では小学校区にまちづくり協議会が全て出来上がりましたので、交通まちづくりの問題もまず地域の協議会の中で今抱えてる交通まちづくりの課題を皆で話し合っ出て出し合っ出て、ここの地域、ここの交差点、この道はこうしようよと言うことで、合意を図っていただくと案外スムーズに実現していくのかなと思います。この街づくり協議会の役割をこの交通まちづくり懇話会でもう一度考えていただきたいなと思っています。交通対策課の方々は、まちづくり

協議会のなかでもこうつうまちづくりについて、考えていただくとよろしいかなと思います。

- ▼ 最後に一番初めて出てきたグリーンベルトの話題に触れたいと思います。これは前々から話題に出てきたと思いますが、本来は歩道を作らなくてはいけないんですが、道幅が狭くて歩道が作れないという時に次善の策といたしまして、緑の線を引こうという事になっています。一番良いのは歩道と車道を分けていくということですが、もう一つの方法としてガードレールを設置するという方法もあります。おそらく歩道と車道が分けられない、そしてガードレールも難しいということで、今のところはグリーンベルトになっているのだと思います。ここを今以上に何とかすることは、非常に難しいと思います。あとは皆が道路の使い方を色んな人たちのことを考えて、自分でコントロールしてもらうということが大切なのかな、重要なかなと思っています。
- ▼ 全ての問題は私は一緒だと考えています。ルールがあろうとなかろうと、周りの状況を自分で判断して今はこうすべきである、こうしなくてはならないと自分で判断するのが本来の姿ではないかと思っています。例えばスピードの制限が40キロであったとします。40キロで走っても良いと普通は考えてしまうと思います。でも状況に応じてスピードを落として進まざるを得ない状況もあると思います。自分で判断をして、周囲の方々のことを考えるということが大切かなと改めて今日感じた次第です。
- ▼ もうひとつ重要なことを忘れていました。駅員さんが足りないなら、我々が駅員さんの代わりにしたら良いじゃないかというお話がありました。私はその考え方に賛同します。うろ覚えで申し訳無いのですが滋賀県の日野駅だったと思いますが、この駅が無人駅となってしまいました。それで地域の自治会を中心に鉄道会社と話し合いを行ったところ、駅員さんの代わりに自治会で輪番で駅員さんの代わりをするという協定を結んでいる地域があります。そのような事例も既にあります。
- ▼ 鉄道会社も採算の問題で駅員さんを増やすことが出来ない。駅員さんもどんどん減らされていく中で駅員さんを増やせと言われても、中々実行できない。どうやったらその代わりが出来るんだろうかということで自治会の方々が思いついたのが、自分たちが駅員さんの代わりをしようという発想でした。これは近鉄さんなり、JRさんなりが相手方になってくるとと思いますが、ひとつ考えてみても良い話かなと思います。駅のホーム上に駅員さんが居ればいいんですけれども、そういうことは中々難しい。昔は窓口で駅員さんから切符を購入していました。そういう時代であれば、視覚障がいとか聴覚障がいを持つ、それぞれの人に対して人が対応してくれていました。確かに便利で効率的になったとは思いますが、その結果不便を一部の方々に強いてしまっているという実態があると思います。もう一度社会全体のことを見直す時期になってきたのかなと思っています。もしかしたら、どうしても運賃を上げざるを得ない時期が来るかも知れません。そこを甘んじて受け入れることが出来れば、少し違う道が出てきます。運賃は上げて欲しくない、でも駅員さんの数を増やせ、これは無理な話です。そこをどういう形で皆が負担をしたり、頑張ったりして良い方向に持っていくのか、これを根本的な所から考え直していくとユニークな面白い考え方が出てくるのかなと思います。次回の懇話会の時までにはアイデアを持ち寄ってきてもらえて、より前向きな意見交換ができれば嬉しいなと思っています。今日はどうもありがとうございました。

【閉会のあいさつ】(略)